

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 29 日 (2007.3.29)

【公表番号】特表 2002-536198 (P2002-536198A)
 【公表日】平成 14 年 10 月 29 日 (2002.10.29)
 【出願番号】特願 2000-598348 (P2000-598348)
 【国際特許分類】

B 2 3 B 27/00 (2006.01)

B 2 3 Q 11/00 (2006.01)

【F I】

B 2 3 B 27/00 C

B 2 3 Q 11/00 A

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 2 月 7 日 (2007.2.7)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 締付け端部 (2) を有しかつこれとは反対側の端部に切削インサート (9) を有し、さらに前記締め付け端部内に制振という目的を有する幾つかの piezo 素子 (8) を有するシャンク (1) を含む切屑を除去する機械加工用の切削工具において、
 前記シャンクの長さよりも短い長さを有する 1 対の互いに協働する平らな形の piezo 素子 (8) は、前記シャンクが機械内に固定される領域に隣接する区域内で、さらに正確に述べると前記シャンクの外側表面に隣接する位置で、前記シャンクの両側に配置されてことによって、

前記 1 対の piezo 素子 (8) が互いに前記シャンクの曲げ振動を主として制振することが可能であるように、前記 piezo 素子の分極の方向が前記シャンク (1) の縦軸線とその外側表面との両方に対してほぼ平行であり、且つ前記 piezo 素子 (8) が論理制御回路 (16) の形の制御装置によって電源からの電圧の印加を介して積極的に操作可能であることを特徴とする切削工具。